

さんさん山城茶摘みの集い 爽やかに芳しい新芽を

木津川畔 覆い下萌える緑
玉水橋近く

京田辺市の障害者就労支援事業所で農福連携センターの「さんさん山城」(新免修施設長、藤永実センター長)恒例「茶摘みの集い」が始まった。

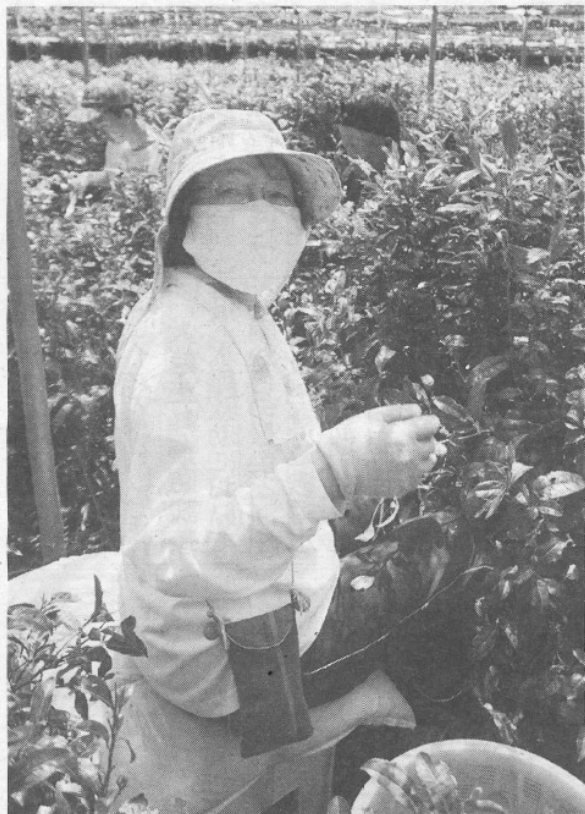
地元特産で加工品の原料にもなるてん茶(抹茶原料)の茶葉は、春先からの温暖な気候に恵まれ順調に生育している。

新しい芽が芽吹く萌芽は例年より早く、さんさん茶畑でも前年より早めの今月13日、茶摘みがスタート。

今シーズンも、市内松井に物流拠点を構えるアマゾンなどのスタッフや、摂南大学などの学生らが「摘み子」ボランティアによって来て



藤永センター長のアドバイスを耳にして丁寧に手摘みした同志社大学の早川さんと厚さん



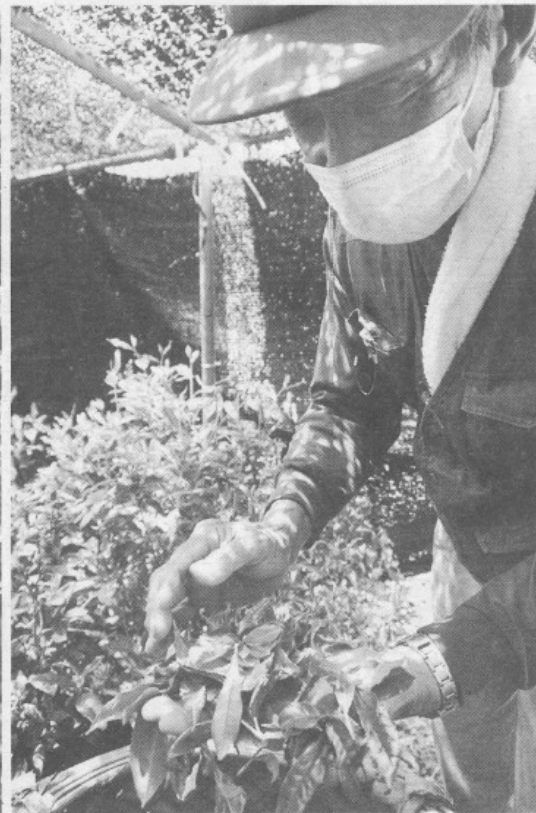
手際よく茶葉を摘み取った野口薫さん



奥田のぶゑさんの笑顔が覆い下で弾ける



静岡住まいの後藤眞智子さんも活躍



摘んだ茶葉をばらばらと…かぐわしき瞬間

多様な摘み子が支え

藤永センター長は「収穫量は前年より増えそう。適期で摘めてい」と高評な落札の様子も伝える。

約10日の期間、ワンコイン500円でお腹いっぱい食べられるランチを提供するコミュニティカフェを休業し、利用者と職員も茶摘みに徹する。

近隣をはじめ全国各センター長らスタッフと利用者他園で肥培管理や茶摘みの手ほどきを受け、知識と技術を蓄積していった。

茶栽培当初は、藤永センター長らスタッフと利用者が他園で肥培管理や茶摘みの手ほどきを受け、知識と技術を蓄積していった。

初日から続けて作業5日目となるのは、静岡県掛川市の後藤眞智子さん。

テレビ番組でさんさん山城の取り組みを知り、「静岡で農福に励んだ。

茶摘みを体験する参加者の属性は年々バラエティ豊かに。友達や家族と、あるいは一人で参加する人たちも作業する中で新たな得る感覚にときめきを隠さない。

利用者・職員・有志ら約40人が手摘みに励んだ18日も、真夏日となる気温30℃近くを上ぶにつまんだ。

昼を挟み、覆い下には時折、心地のよい涼しげな風も吹き抜け、寒気紗が和らげるやさしめの光に包まれながら柔らかな新芽をぶにぶにつまんだ。

「三山木」は「私の趣味。楽しんでやってる」、野口薫さん。

田辺市は「以前に他の茶園で玉露用を摘んでいた。年中あればずっと来るぐらい好き」と声を弾ませる。

この日やって来た大學生のうち、いずれも同志社大学に通う早川祐太さん(4年)。

「愛知県出身」は「折角、京都に住んでいるのでやりたかった」、厚祐実(あつしゆみ)さん(3年)。

兵庫県の出身は「どの部分を摘めばいいか、の見分けが付きにくい」と懸念。

長袖(またはアイムカパー)・長ズボン・帽子・運動靴・タオル・飲み物など持参する。希望者は、名前・人数・電話番号・FAX番号・メールアドレスを記入して、メール tkudakeyoto-chogen.jp に申し込む。

申し込みフォームと、注意事項、地図はさんさんホームページに掲載。

問い合わせは同施設 0774-397113まで。

☆お誕生日おめでとう☆
写真&メッセージカード
愛しい人の「この1枚」を
詳しくは…地域新聞洛タイ新報
☎(0774)22-4109 まで
URL: http://www.rakutai.jp
E-mail: news@r-sinpo.co.jp